

六条 公民館

未来に向かって 翔べ！
六条っ子



世帯数 785
人口 1,945



六条地区は、福井市の南東部に位置する田園地帯で、明治の昔から「子供は地域の宝、地域で育てよう」という気風に満ち溢れています。「教えて先輩」講座では、六条出身の先輩を講師に招き、六条小学校において公開授業として講演しています。昨年は書道家：岡崎朱陵氏に「六条っ子 未来に羽ばたけ」と願いを込めて、大紙に「翔」と記し、その周りには、六条小学校全児童と先生の手形を押し、全員で撮影しました。

東郷 公民館

ひと・まち・未来が
よりそう 東郷時間



世帯数 1,318
人口 3,788



東郷地区は、自然豊かで人々のつながりが深い地域です。中心には堂田川が流れ、四季折々の景観を楽しむことができます。また、地域の歴史や文化を大切にしているとして毎年「おつくね祭」が行われ、住民の交流の場となっています。そして公民館では、SDGsの一環として、フードパントリーや古いシャツや布を裁断し福祉施設等へ提供するリユース・リサイクル活動も実践しており、資源の有効活用と環境保全に貢献し未来へつなげています。

美山 公民館

花咲く道でこんにちは！
ここが美山やざ！



世帯数 1,333
人口 3,340



美山公民館では、国道158号線沿いに全長約500m続くフラワーロードを、地域の皆さんと手作りしています。「雑草より先に笑顔が咲く！」を合言葉に、道行く人の心にも花を咲かせたいと願いながら、今日も水やりと草取りに励んでいます。

下宇坂分館



歩いて元気、作って笑顔、
広がる下宇坂の輪

毎年、ランタン作りやゴム動力飛行機を作って飛ばしたりしています。地域の大人も子どもも世代を超えて楽しんでいます！！

芦見分館



学んで守り、
受け継いで味わう芦見

恒例の防災講座で土のうを作り、災害に備えています。また、地域の郷土料理や歴史を学んで、歴史を未来に伝えています。

羽生分館



地域に尽くし、
仲間と楽しむ羽生の輪

毎年、羽生小学校の奉仕作業に参加しています。地域と共に学び、仲間と共に楽しむ羽生分館です。

上味見分館



門松に願いを込めて、
地域をつなぐ上味見

毎年12月の門松作り。地域の方が材料を整え、講師も務めてくださいます。和気あいあいとした雰囲気です！

下味見分館



川と森で遊んで学んで、
笑顔あふれる下味見

自然と伝統を大切に、赤谷川の鮎つかみやふくろうの森の手入れを通して、学び楽しむ分館です！！

上宇坂分館



通る人も楽しむ、
光あふれる上宇坂

毎年恒例になっている、美山公民館のイルミネーション。国道158号線を通る方に光と笑顔を届ける上宇坂分館です！

中央 公民館

地区公民館との連携を通し、
先進的事業の発信をめざして



世帯数 108,654
人口 252,666



中央公民館は、福井駅にあるアオッサ5階に位置しており、福井市全体を網羅するスケールメリットを活かした取組を進めています。地区にある49公民館との連携を取るために、個別に事業の連携をしたり、ICTの生成AIに関する講座や、高校生などの若者を主体とした講座、働き盛りの年齢層をターゲットにした自己啓発に関する講座等、先進的な事業への取組を展開したりしています。

防災は絆づくりと事前対応
～避難は向こう三軒両隣で～

文部科学省
令和6年度優良公民館表彰

福井市国見公民館



国見地区は、日本海に面し、後背地には丹生山地が広がっている自然豊かな地区です。その豊かさゆえに、自然の脅威にさらされやすく、多くの集落は海岸沿いに密集していることから、津波が発生すれば多くの住宅が影響を受けます。また、高齢化率は48%と、市内で3番目に高い地区であり、住民同士が協力して避難することが求められています。国見公民館は、人口が少ないことや高齢者が多いこと等を逆手に取って、地域全体が大きな家族のような人間関係を築いている点に着目し、そのメリットを最大限に活用するという考え方で公民館活動を行っています。行政からの指示だけでは、地区特有の事情に配慮した取組が十分ではないため、これからも住民の声をよく聴いて、地区の独自性を大切にしていきたいと考えています。

取組内容

大災害に備えて、国見地区をひとつに（組織化）

- 東日本大震災の後、自分たちの地域も他人事ではないと、地区自主防災組織連絡協議会を立ち上げ、公民館とともに地区独自の「グループ避難」方式を考案
- 津波や水害発生時の避難方法をまとめた「国見地区災害時避難マニュアル」を制定
- 避難終了世帯を見分ける「黄色いタオル」を全戸配布
- 小中学生に対して、防災（令和6年度は津波）に関する学習を実施

危険はいつも身近なところに（危機管理意識の向上）

- 年々被害の規模が拡大している自然災害に対し住民防災意識を高めるため、毎年防災研修会を開催。令和6年度は、同年1月に発生した能登半島地震での経験から、炊き出しマニュアルの改正をテーマとして開催予定
- 高齢者の“逃げ遅れ”を防止するため、町内ごとに開催しているシルバー喫茶にて、危険に対する知識・意識をより向上させる防災教室の出前講座を毎年実施

取組みによる成果

各世帯に配布された「国見地区災害時避難マニュアル」により、毎年の避難訓練の参加者は90%を超え、隣近所で声を掛け合いながら避難するというスタイルが地区民の間に定着してきました。なお、マニュアルに掲載しているグループ避難表は、年度初めに自治会役員により情報更新され、住民に再周知するようになり、自治会役員の防災意識も向上しています。これらの取組が評価され、地区自主防災組織連絡協議会は「第18回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞」を受賞しました。

また、出前講座や地区研修会、小中学生への啓蒙普及等により、行政の避難所開設前から自主的に避難を希望する声が上がると、住民全体が事前避難の必要性を認識するような防災意識向上が見られ、令和3年春には、降り続く雨に不安を感じた住民からの要望を受け、行政の避難指示に先んじて、公民館を避難所として開放しました。

令和6年1月の能登半島地震の際も、日頃取り組んでいる地区内の防災研修会や、住民による防災に関する意見交換を行っていた成果が発揮され、津波警報と避難指示の発令後、速やかな避難を実現することができました。

国見公民館のホームページ▶



福井市公民館連絡協議会の取組

市公連のあらまし

福井市公民館連絡協議会（市公連）は、公民館の館長と主事が会員となり、昭和35年に発足した任意団体です。公民館活動の基本理念である「つどい・まなび・むすぶ」を踏まえ、公民館相互の連携と職員の資質向上や親睦を図り、社会教育の進展に寄与することを目的としています。

それぞれの公民館が、市民とともに培ってきた力を結集して、生涯学習の環境づくりをめざしています。



光ブロック市公連・運審連合同研修会

基本方針

- 市民の生涯学習を支援し、「みんなが輝く全国に誇れるふくい（第8次福井市総合計画）」の実現に向けて、ひとづくり・まちづくりを進めていきます。
- 持続可能な地域コミュニティづくりのために、コーディネーターやファシリテーターの役割を果たします。
- 地域課題や住民のニーズに対応できる教育事業の充実を図ります。

主な事業

- 福井市公民館研究集会
- 市公連・運審連ブロック別合同研修会
- 市長と語る会
- 教育委員会への要望
- 不死鳥のねがい（福井市市民憲章）の実践
- 福井フェニックスまつり協賛
- 福井県公民館連合会事業への参加



市長と語る会

持続可能なコミュニティづくりのための公民館の果たす役割

令和7年10月15日（水）アオッサで、西行茂福井市長をお招きし、公民館運営審議会連絡会と合同で開催。

市公連からは、吉川義則副会長が、人口減少、高齢化、人間関係の希薄化にともない、地域力が低下していく懸念

がある中で、子どもや若者の郷土愛を育て、地域の担い手に繋げる人材育成や、公民館がこれからの地域社会で果たす役割について意見発表しました。

また、運審連からは、清水正寛副会長が、避難所の環境整備や安全安心なまちづくりについて意見発表しました。

西行市長からは、「それぞれの地域で、地域の誇りを掘り起こすことで、郷土愛やまちづくりの担い手が育っていくことを期待している。公民館は、こどもの居場所づくりには欠かせない施設だと考えており、こどもや若い人が活躍できる取組みを考えていただきたい。

職員が働きやすい職場になるよう留意しながら、福井の元気を発信する『源』として、これからも手を組み合い市民の幸せのために頑張っていきたい。」とお話をいただきました。



福井市ふるさと納税で地域と公民館を応援しよう

ふるさと納税は、ふるさと納税は



ふるさと納税は、公民館を拠点とした各地区のまちづくりに活かされています。福井市では、ふるさと納税の寄付金の使い道を各地区に指定していただくことで、翌年度の事業補助に上乗せすることができる「地区指定ふるさと納税加算制度」を実施しています。

市外在住の家族や親戚、同級生などの皆様に、地区を選択した「ふるさと納税」への呼びかけをお願いします。